



秋田市保戸野にある通町本店にて。店内には市販薬から健康関連グッズ、小物雑貨、菓子類などがぎにぎしく陳列されている。何度も訪れたい品ぞろえも魅力の一つだ。

## “社員の幸福”が生み出す信頼と貢献。

株式会社サノ・ファーマシーは、創業220年余りの老舗薬局。グループ全体で、社員数250名、県内外に40店舗を展開している企業だ。“医薬”を取り巻く環境は時代とともに常に変化する中であって、今なお地域の支持を集め、「佐野薬局」の名を不動のものにしている。そこには、“お客様・患者様”に対する誠実な想い、働く仲間を大切にする“風土”があった。それは、長い歴史の中で培われてきた同社の大きな財産である。

### 株式会社サノ・ファーマシー

代表取締役社長 佐野 元彦 氏



あたたかい人柄がにじみ出る 柔軟なものごしの佐野社長。

#### ■数値目標はない

サノ・ファーマシーグループでは、調剤薬局をメインとした店舗を秋田県内に23店、岩手、神奈川などに計17店を運営している。社員250名のうち薬剤師は半数以上を占める。綿密な出店計画と売上目標なくしては、このような数字は達成できないだろうと推測しがちだが、そうではない。「出店数、売上高の目標や戦略といったものは特に設定していません。いろいろなものごとの結果としてこうなっているのです」と、佐野元彦社長は言う。医薬分業が進展

し始めた昭和50年代以降、佐野薬局は多くの病院・診療所から開局を求められるようになった。“信頼のブランド”として定着していたからこそこのオファーである。今日の実績は、そういった地域からの期待に応え続けてきた結果だ。規模や利益の拡大そのものを目的とせず、「お役に立つ」ことを起点とした事業に徹する。人々の暮らしに貢献するか否かを基準とした活動が、2世紀を越える長きにわたって同社を存続・発展させているのだ。

#### ■薬を売らない薬屋さん

同社では「地域の健康生活支援ステーション」という経営ビジョンを掲げている。提供するのには、“健康”に関連したサービスだ。「治療」より「予防」、そして「介護」分野との連携がこれからの長寿社会に不可欠であると、佐野社長は強調する。「病気になるない提案をし、介護に関する疑問や悩みにも対応できる“よろず相談窓口”になることをめざしています(佐野社長)」。極端に言うと、“薬を売らない薬屋さん”ということになる。同社には薬剤師のほかに、管理栄養士、アロマセラピスト、ケアマネージャー、ヘルパーなど、心身の健康維持や介護に関する専門知識を持つ人材がいる。社員がそれぞれに持つ経験や知識を全員で共有するため、佐野社長は昨年、全社員に「iPad」を導入した。同機のビデオ通話機能を利用すれば、どの店舗にいても来店客と対面してやりとりができる。薬以外の相談を受けたときはその場でネットで調べて提示することも可能だ。耳の不自由な方でも安心して来店してもらえよう、「筆談アプリ」もインストールされている。顧客からの評判も上々だ。

#### ■「社員満足」が先

“経営ビジョン”は“めざすべき姿”と言い換えられるが、“経営理念”は“経営の根幹的な考え方”と言うことができる。同社の経営理念は、「人々の健康で快適な生活に貢献することを通じて、全社員の物心両面の幸福を追求する」ことである。最終目的が「全社員の幸福」となっていることについて佐野社長は「会社で大切にされない社員が、お客様を大切にすることはできない」と考えている。安心して働ける環境があってこそ、社員はのびのびと力を発揮することができる。そこで感謝される喜びを知り、仲間とともに働く喜び、成長する喜びを得て、はじめて人々の役に立つ質の高いサービスの提供が可能になるのだ。「社員満足が先なんです」と、佐野社長はほほ笑む。

同社では、社員が安心して働ける多様な制度を数多く整備している。全社員の8割以上を占める女性への配慮も厚い。出産・育児・介護と両立して仕事を続けられるよう、産休・育休はもちろん育児短時間勤務制度も導入し全面的に支援している。

地域社会への貢献は、心を一つにし合える仲間の力なくしては叶わない。仲間の一人ひとりが仕事を通じて人生を輝かせることを、「佐野薬局」は常にめざしてきた。それはこれからも変わることのない同社の理念である。

導入して1年、今では全社員が軽々と使いこなす「iPad」。図説などが載った見やすいサイトを探し出し、いっしょに画面を見ながらお客様の相談内容についての理解を深めてもらうことができる。



金足農業高校の卒業生らが開発したヒルよけスプレー「ダウンヒル」。山菜採りシーズンになると良く売れるという。秋田産商品を応援したいという思いから、秋田で作られたものを積極的に仕入れている。



5年前、社内に「経営理念浸透プロジェクト」を立ち上げて創った「経営理念手帳」。5つのテーマごとに、20項目の“考え方・指針”を記してあり、100ページにも及ぶ。一日1ページ、朝礼で読み合わせをしている。



同社の福利厚生の一つとして、「秋田ノーザンハピネット」のホームゲームを無料で観戦できる。

### 株式会社サノ・ファーマシー

〒010-0912  
秋田県秋田市保戸野通町3-31  
Tel. 018-823-9357  
Fax. 018-863-2911  
http://www.sano-ph.co.jp/

- 創業/江戸時代後期(創業220年)
- 資本金/5,000万円
- 売上高/62億円(グループ全体)
- 従業員/250名(グループ全体)
- 事業内容/薬局経営



江戸時代に使用されていた薬箱。寛政年間には佐竹氏より名字帯刀を許され、代々「佐野八五郎」を襲名し、薬種処と呉服・太物・小間物商を営んできた。佐野社長は8代目にあたる。